

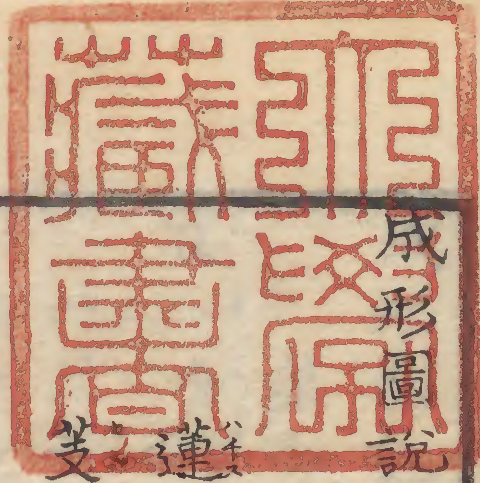
成形圖說 菜蔬部 二十八

三〇册	六一架	二一八〇號	和書門類
-----	-----	-------	------

一九六函	二一八〇號	和書
二一八架	三〇册	

內閣文庫	
番號	和 21180
冊數	30 (28)
函號	196 97





成形圖說卷之二十八

目錄

附錦邊蓮

雙頭蓮

千葉蓮

淺草文庫

成形圖說卷之二十八

菜部 水菜類

波

波ハ知須紀類水菜類今畧して波須といひ又波

池見艸莫傳鈔〇枝かどて波須といひ又波

麿らぬ枝み花や波露堪艸

はにうらふさか風乃集み水乃花今注荷花一名水花

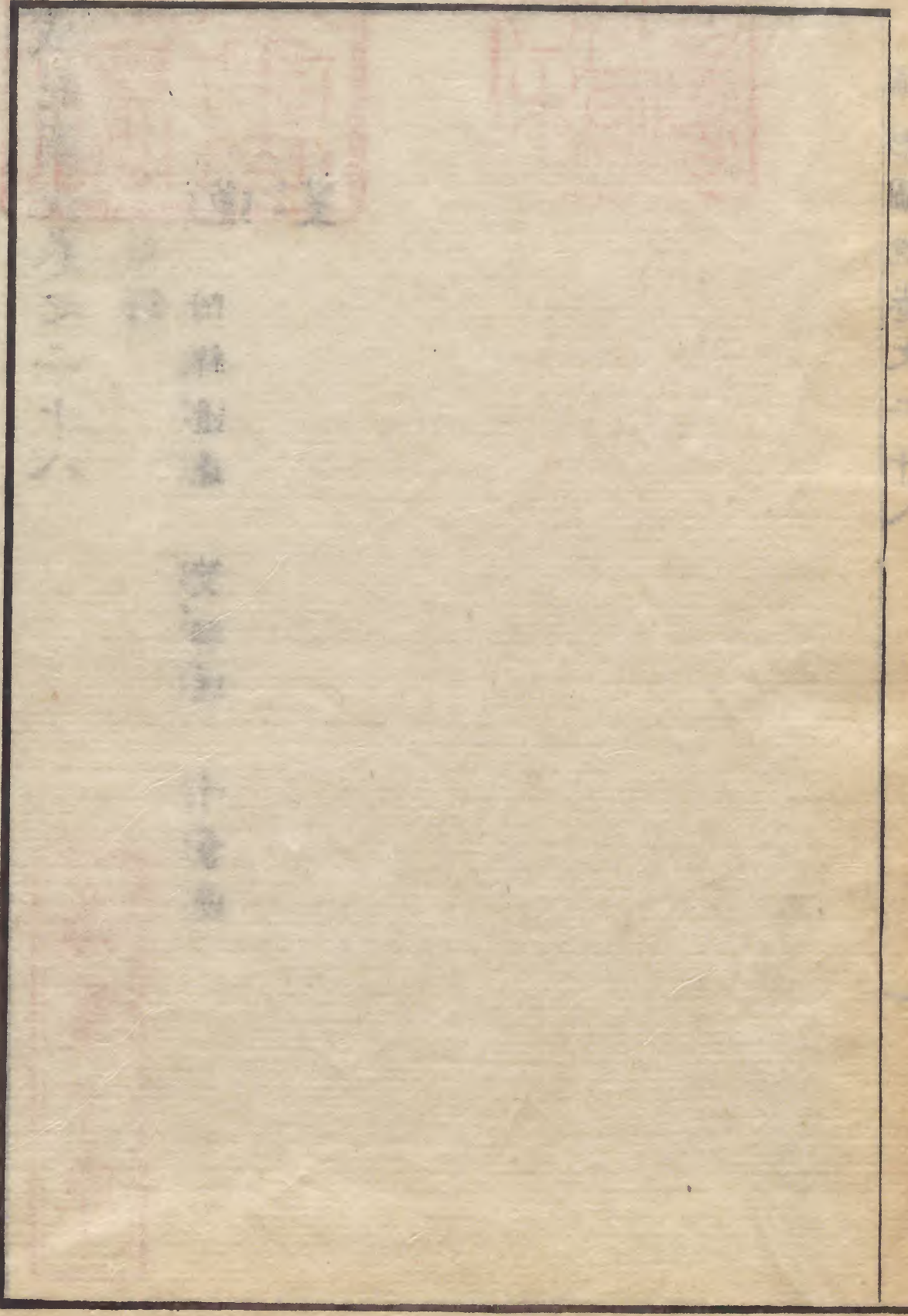
妻無艸藻藏玉和教子水乃花今注荷花一名水花

蓮本艸字典古今文志一集本水乃花今注荷花一名水花

蕪芙蓉雅說上文爾荷花注毛詩古今水芝水花

古今芙蓉雅說上文爾荷花注毛詩古今水芝水花

成形圖說卷之二十八 澤芝 潜確類書作澤芝水且 淨友





小蓮
ナヤワシレム

これバ彼方を既く蓮とのいひ習せしあり○此の
 藕子通孔て茄子筋縁と花むそ大小ひとしく節毎
 一葉一莖と出以根鬚あり俗子一月一節づつと
 生し岡所る年ハ十三節わりと
 ○凡一節二莖と生以そ一と波知須乃浮葉と云
 やどや葉と所れ花蓮即水艸の藕荷あり
 おこりや浮葉ありん即水艸の藕荷あり
 いふ四月生てあり貼て浮へる也此下子旁行て藕と
 生以蓮乃苗とつ花鏡謂藕秧あり又浮葉の嫩く小
 葉と稚葉とつ内膳式稚葉七十五枚と云ゆ
 わり葉子まこゆらん水艸の荷錢なり亦公荷と云
 が花やを乃光なるらん

按續博物志曰藕生
 應月閏月益一節
 葉家
 亦貼荷葉
 貼水荷葉

荷錢象形○山谷贛上食蓮詩實中其一と波知須乃立
 有公荷拳如小兒手注公荷謂小葉其一と波知須乃立
 枝又波知須乃立葉と云夫本集初いとへをの立葉の
 本州の芰荷あり子月子生て水と推て植との成いふ
 この立葉の旁ふ六月莖と出しく七月花と発くおと
 時珍所謂花葉常偶生不
 偶不生故根曰藕是也
 花子は教の色あり白紅粉紅
 の三不と止せとし白とて上等と成心子黃鬚あり
 即莖みて七さ一寸許此其蓮房と抱くかり本州の蓮莖
 鬚一名佛座鬚あり又蓮花鬚蓮
 者おして莖と色を實と該傳れり溪蓀かどと形劣るみ
 ほかの蓮花に比ぶればふいふしとて其母は

白身尖熱のわの穂照さくろのゆあべ他の汀み徜徉よ
 れは若妹子が裾吹風のたあゆみ志むむりわ此香か
 どいどぐえあうぬ折しと白雨あんだの一志をれ世色
 ればほせと問ひし白玉のをち枝乃葉末またゆきふい
 さかから強き先づの態まで時おほもひ出らるべし緑
 水江蓮一采開干花萬州無顔色とから詩打吟さば
 濁るるあよあ出て水ありと浄蓮の客乃志る玉也
 少とどりくあるべし氷寒江の凝結する泥の中より生
 られども性ハ純陽の英氣とあん稟好しうばお日先
 子向く宛あ午と色もは復欽むみ花さあ即實所を花

謝ハ房尺え房成バ実何くもそ房の形ハ噴壺子似く
 細ハ葉子終る玄し葉は傘蓋子類て界紋ハ細ハ微く
 赤く後ハ莖と生に縹緑とあるそ莖ハ中通ア外赤く刺
 肉白く心生意と飛し藕より萌芽を展轉生生造化不息
 の妙理と具存とどこちこく稱しとさるおと也彈鏡の
 碧藪子荷葉の水と出る時いっん曰蓮花ある蓮花の水
 と出ざる時いっん曰藕葉カケと同答也しハ邵子が周
 ハ天地の先子即り蟬ハ地の後子立とつひるん蟬用
 一源の彈子習ひしあるごとし○此もの和唐の二種大小

の西品ハ長丈餘子並りものと大蓮とつ小なものを
 此ハこもりはも花葉根実亦おまに稱一重○一種茶
 盤蓮とつ小里花の徑二三寸盆盂に植て几案此佳観
 と名あけりぬ者遊畏の清賞と云ふハ大槲野生と紅
 花の者ハ蓮房多く藕劣は莖極及白花の者ハ蓮房少
 希もどと藕勝は花白さとのハ香く紅ハ艶ふ千葉乃
 を実と法ハと大ハ蓮のどみ和蓮の子ハ榧子れ小さが
 かく唐蓮子ハ稍小く矣し
 蓮乃莖和名蓮莖通稱
 蓮茄和名鈔引爾雅其莖茄○字典
 云茄通荷師古註茄古荷字
 荷品字箋○時珍云
 莖乃負葉者有負

すしといふはと時人傳まつげくみ裁らり人必中あり
蜘蛛の糸と糸の出るとハ蓮糸と深出せしむるはかく
ハ裁類ハ出るづし又奇志むみ是らむや但我君氏
寛政戊申の歲始る蓮布を製する先城池ハ蓮葉若干亭
と採て宮内みはさしめ云々存採採て一把とし毛莖と
折り、從て莖中の糸と率出し糸と水み漚し純緝た
て、両旁乃縁みハ蘭糸おのく二縷けくと澄緑み加ふ
こは蓮糸の性脆むの採糸毛施さるぬ為の汁と以て緯
子みハ今く蓮糸の用ひするやうく外端の善機匠
よりものとしてこ糸を減む其は亦全く布縷乃製み

異なり初て試み織る所此者長一丈五尺幅九寸なり
之ハ一端と其一丈を以て今公兜蓋の浮淺う此
ざりは本引立烏帽子ハ陣中此曹みてむしは軍營と
いづつは烏帽子と重とて孔容と失名因て曹を綴て
大将カ前み出るとハ折るとた鳥帽子と並み戎衣
引たてるとそま制からんと谷川氏いつと並み戎衣
此襖衣となりてこ糸は珍蔵とて五尺をとるは畫匠
お命やく佛像と圖繪て曼荼羅と騰寫こ糸と寺觀み施
せり其餘ハ皆人の請ふ行み御遺子孫をのりると
臣國柱 謹按み我君氏好速の貴子豐富乃安み居て君
ハ故堤中納言藤原代長卿齋服の成憲と仰み締絡の勤
の中女今公の親母なり齋服の成憲と仰み締絡の勤
侯と慕ひ躬紡績の功と効し内治の化宮極み被り女紅

の事備ざるよし其餘緒逐々蓮布の製と試と玉の又後
て俗説の怪談と弭る子庶哉とつべし彼中將姫の蓮
其跡と奇と蓋方便の法如く一食長齋精進念佛毎日書撰受經三
中將姫別髪名法如く一食長齋精進念佛毎日書撰受經三
卷至次年六月筆法如く一食長齋精進念佛毎日書撰受經三
堂一心祈請斷食水穀以死自誓時六月十一日真身十五日在
日中過忽有左法相偉麗而至法如問師自何而來答從西
方來我鳥極樂莊嚴相為君者如何云云願也何時寫出
令我得見左云須來蓮莖百馱乃可成就法如願也何時寫出
請于朝教許十八十九兩日荷莖俱至二十一日二日而
屈折莖作絲穿寺東北一穴為井以絲入井染之五色燦然
二付女女接云最好今夜即織今暫歸去至戌刻持織具來
自亦營為共事子丑寅三時中用油三升酒藁三把法如燃
之機杼之聲清微四更織成天曉女出庭前所一竹為軸去
乃一夜之中所生長一丈五尺無節卷而為軸持與尼徑去
不現尼掛之中堂指圖中依正等境示法如復禮三拜唱偈

曰往昔迦葉說法所今來法起作佛事感君懇志我來此一
至是去今此尼亦或復然又適前歸之女是我左脇觀世音
言而去今此尼亦或復然又適前歸之女是我左脇觀世音
識是何人哉如是滿我願又適前歸之女是我左脇觀世音
方極樂世界教主阿彌陀如來適所還女是我左脇觀世音
也伸手三摩法如頂云再過不遠却後三年法如或云若左
當室龜六年三月起至二上岳隱矣至十三年法如或云若左
蓮茹と宮裡と新羅の尼理願の屬ありと云々或云若左
まと煩し或は他所の者と収むるものと急かすものと
此功徳の同有在る者と収むるものと急かすものと
の素行の民と仁心と恩意と佛像と曼荼羅と
乃曼荼羅と威了やそと近は太和の三回と
業子阿のつ又以て長事と長事と長事と
成形成圖説卷之二十八 九

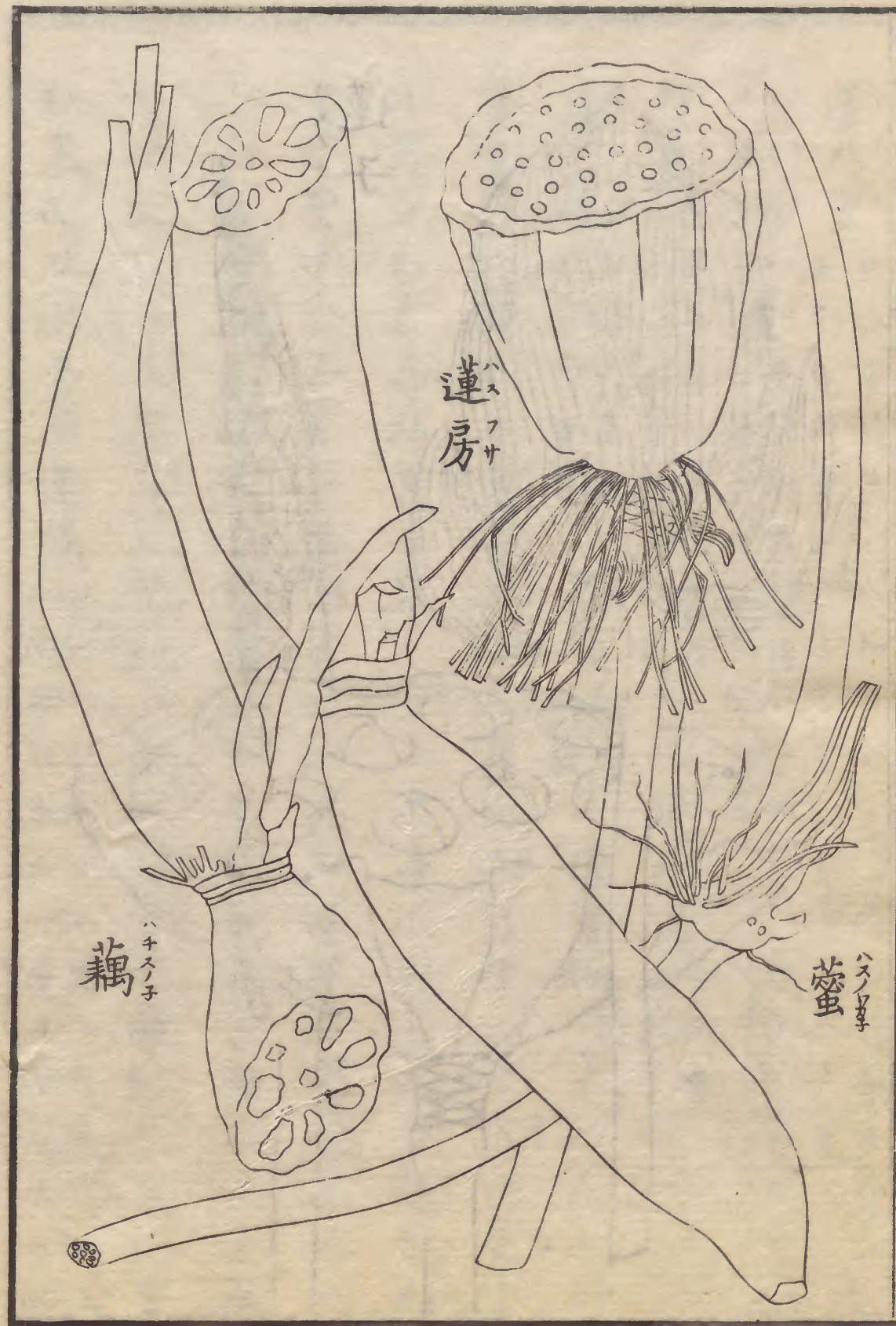
之類遇早多結成花或作龍蛇之形熙寧年李賓客及之知
 潤州園中菜花悉成荷花仍各有一佛坐于花中形如雕刻
 李君之家奉佛甚厚因有此異又齊東昏鬱金為蓮貼地令
 潘妃穿寶屐行其上曰此步步生蓮花也又唐の張昌宗の
 姿色を以て則天后の意を承へてと揚再思と云へるが今
 ひとの六郎がととと蓮花の似つゝあつたといひるハ非あつ
 よ蓮花が却て六郎の似つゝふと誤つてとととむつたハ
 蓮花と海棠とをさうさうて國と礼しをみ祝す穢と彰せしを
 ととと淫戯をなして國と礼しをみ祝す穢と彰せしを
 此が汚名を穿ち朽ぢせぬ大清諸州本方云七月七日

採蓮花七分八月八日採蓮根八分九月九日採蓮實九分
 陰乾下篋每能服方寸匕令人不老○灼艾爛瘡子花辦を
 貼てよし廬山集云遠法師下僧惠要者患山中無刻漏乃
 於水上立十二葉芙蓉渠因彼轉以定十二時晷景無差
 波須布佐蓮乃殼
 蓮房爾雅註蓮謂房也蓮蓬殼目細
 蓮房と食ふハ嫩子時皮と蒂と去灰と入煮の後又清
 水にて煮て灰味と去焙乾し掛て石にて體め片は包
 ふ蓮生○痔漏と治るハ蓮房牽牛子各八當飯二細末
 八棧しヒ一づ、空心湯をて用ふ和方一萬方



蓮子ハスノミ

蓮乃實ハスノミ新撰字鏡其訓ハ和名鈔ハスノミ子按ハ〇塘ハスノミ日記
 加知須乃美カチスノミ本艸和名〇按加ハ衍字波須須藻ハスノミ
 乃芽ノメ受蓮子ハスノミの心ハスノミハ意ハスノミ蓮乃蒂ハスノミ即荷鼻ハスノミ
 蓮子ハスノミ和名鈔引爾雅ハスノミ韻藪爾雅ハスノミ蓮實ハスノミ爾雅ハスノミ
 蓮實ハ内膳式ハスノミ蓮子二十房ハスノミ蓮の子ハ生ハスノミ食ハスノミ
 九月ハスノミ子ハスノミ房ハスノミ枯ハスノミ子ハスノミ黒ハスノミ堅ハスノミ如石ハスノミ者ハスノミ乾ハスノミ搏ハスノミ破ハスノミ之ハスノミ圖ハスノミ經ハスノミ云ハスノミ其ハスノミ藪ハスノミ至ハスノミ
 實ハスノミ即ハスノミ蓮子ハスノミ八ハスノミ九ハスノミ月ハスノミ采ハスノミ黒ハスノミ堅ハスノミ如石ハスノミ者ハスノミ乾ハスノミ搏ハスノミ破ハスノミ之ハスノミ圖ハスノミ經ハスノミ云ハスノミ其ハスノミ藪ハスノミ至ハスノミ
 秋ハスノミ黒ハスノミ而ハスノミ沈ハスノミ水ハスノミ為ハスノミ石ハスノミ蓮子ハスノミ又ハスノミ南ハスノミ寧ハスノミ府ハスノミ志ハスノミ云ハスノミ石ハスノミ蓮子ハスノミ生ハスノミ藤ハスノミ云ハスノミ々ハスノミ此ハスノミ
 去ハスノミ了ハスノミ葉ハスノミ中ハスノミ子ハスノミ亦ハスノミ蓮肉ハスノミといハスノミハ亦ハスノミ石ハスノミ蓮子ハスノミ石ハスノミ蓮肉ハスノミといハスノミ
 子ハスノミ水ハスノミ子ハスノミ浸ハスノミしハスノミ青ハスノミ皮ハスノミ青ハスノミ心ハスノミとハスノミ去ハスノミをハスノミ生ハスノミみハスノミとハスノミよハスノミしハスノミ陶ハスノミ弘ハスノミ景ハスノミ云ハスノミ藕ハスノミ
 波ハスノミ須ハスノミ須ハスノミ藻ハスノミ塘ハスノミ蓮ハスノミ



二説ハ並み物あり此間葉中の石蓮子にあり
 茶舗子石蓮子といふもの或ハ質高あり味
 突中心と意といふ青白二分の小子青芽也
 吐とやいといふ古詩士無棄苦心石蓮子不老不滅の性
 を存するもの如土中埋ちる好百年生活と於おと新

物の如くやるといふは細目益洗日諸鳥猿猴取得
 年者食之泳不老也又雁食之糞于田野山巖之中不逢陰
 雨經久不壞人得之每且空腹食十枚身輕能登高涉遠也
 ○煎塩戸北塩の成や否やと試みは此蓮子を用ふか
 子と肉海水と承て筒中子沃み塩の成を子とのハ蓮子
 子と肉海水と承て筒中子沃み塩の成を子とのハ蓮子
 子と肉海水と承て筒中子沃み塩の成を子とのハ蓮子

浮上るイホヒ勢極疾イホヒして筒ツノれ中逸出スゲ下等シの塩シは徐達スロ
 として浮ウカむありかく裁サひも更カ試シ引ヒと子蓮コ子乃浮上コ
 らぬもの塩シとならざるのシ泥ニあるが故コに子蓮コ子乃浮上コ
 六と也若カ得トて赤セと煎シじバ竈カ吹イ動ドして破ワ裂レ六と也若カ
 是塩シを造者ツクの要法ヨウありハ煎シ塩シ鹵コ能レ浮フ之シ此物コノ居ル山シ海ノ間ノ經ニ
 百年ヒ不レ壞ク人得ル食フ之シ冷シ髪シ黑ク不レ老ク印ノ本ノ今ニ按テ西ノ溪ノ叢ノ談ニ云ク
 二煎シ鹽シ鹵コ能レ浮フ之シとシ讀シセシハハ誤ル也ナリ
 閩中之法ミ以テ雞ノ子ノ桃ノ仁ノ試シ之シ酒ノ味ノ重シ則チ正ニ在リ上ニ鹹ノ淡ノ相ノ半ノ則チ
 二物俱ニ浮ルとシ志レれバ雞ノ子ノ桃ノ仁ノ試シ之シ酒ノ味ノ重シ則チ正ニ在リ上ニ鹹ノ淡ノ相ノ半ノ則チ
 蓮子味甘性平ニふして毒ヲかシ○主治中ノと補フ血ノ氣ノと益ス
 以テ本ノ○二聖散ノ精ノと失テ或ハ漏レ泄シ久シて虚ルる子

は蓮子心撮ト一辰沙ノ奴ノ一細末ノし毎ニ二奴ノ許ノ空ノ心ノの時ノ白ク
 湯ニふて飲ムべし堂瑞竹ノ○石蓮肉ノ蓮子ノ六一湯ノ心ノ經ノの虚ノ熱ノ小ノ
 て小ノ便ノ赤ク濁ルる子ハ石蓮肉ノ心ノと連ルぬ子甘ク一湯ノ
 小ノ煎シ猪ノ心ノ○蓮子湯ノ虚ノ勞ノの吐ク血ノ及シ蓮子ノ去テ心ノ糯米ノ
 粒ノ細ク末クし酒ノふク服ム方ノ安ク○菌ノの浮ルみハ蓮肉ノ塩ノ各ノ三ノ水ノ子ノ
 てハ子ノ種ノみ煎シ服ムべし和方ノ一ノ
 波知須婆ノ万葉集ノ○又歌ノみ蓮ノの音ノ葉ノ蓮ノ蓮ノ雅ノ葉ノ蓮ノ壯ノ
 葉ノ蓮ノ黄ノ葉ノ喜ノ式ノ延ノ
 蓮ノ葉ノ史ノ記ノ龜ノ策ノ傳ノ龜ノ千ノ歲ノ遊ノ道ノ和ノ名ノ鈔ノ引ノ爾ノ雅ノ其ノ葉ノ
 葉ノ飯ノみ和て茹ふべし先新ノし子葉ノと釜煮ミ布テ飯ト
 成形圖說卷之二十八
 十四

へにしそ上は塩とゆり又紙あごとく煮るしその
 後此方とゆりあり○又方瘡ハスハあし凡瘡連糸
 山飯山飯石菖藤フギニブ癭菝カクシラ各等各等五味子塩と少入て常の如く
 煎し洗ふ水の升めは薬味の多少は固べし○又方瘡伊
 勢硫黄ニアウとゆりありハスの穴コトに練りて入てよし○
 腑骨淋ハコシぬきの方蓮糸威靈仙石菖菴藿葉フギコト癭菝カクシラ各等五味
 劉ハコシ子方子しありて煮るハ大服子煎して用ふ○癰
 とありて時分の事ハ肉腐爛ニクシクて臭き時あり洗ふそ方車
 前子蓮糸桑木ハコシ枝系共三味は塩少入てぬるくと冷わら
 ぶ塩ハ常のくひ塩より少からく煮べし○瘰癧ワレシ子ハ

蓮葉ハスとありて煎し洗ふべし○菹料ハスハ蓮糸甘料ラ
 シワハス輪ハス粉ハス昆布ハス附ハス石ハス燭葉ハス各等ハス白梅ハス五ハス以上七味ハス白梅ハスの肉
 ともて丸の綿ハス子包ハスを合ハスむべし○牙痛ハス子蓮葉ハス肥松ハス菝ハス葵
 紫根ハス沈香ハス各等ハス塩ハス少ハス六味ハス煎しハス根水ハスと天目ハス之ハス煎ハス入ハスて二盃
 煎し合ハスむべし○三種ハス菹ハスの葉ハス蓮糸ハス藍ハス殿ハス各二ハス石膏ハス一ハス切
 煮し菹ハス莖ハスの表裏ハスみ汁ハスとつハスりひて指ハス子ハスて汁ハス固ハスみハス搗ハス附ハス
 べし○蝨ハス齒ハス筋ハス齒ハスの蓮葉ハス三塩ハス一丁子ハス粒ハスとありて煎し合ハス
 むべし○又方ハス白礬ハスと蟹ハス縛ハスの汁ハス子ハスて烟ハス漏ハスむ方ハスの耳ハス子ハス耳ハス
 肥ハス一ハスちハスどハスへべし○大舌ハス小舌ハスみハハス次ハス即ハス重ハス舌ハスありハス連糸ハスと
 ありて常の如く煎して合ハスむべし○婦人血暈ハスハ蓮葉ハス

乾紅花艾之味等分水ニして常の如く煮し用ふ或ハ都ト
 少し加ふ○婦人產後胞衣ニ下ざらむハ蓮葉ヲ煎リ末ヲし
 童子の小便ヲ用ふ○痔の洗ハ糸蓮葉ヲ煎リ末ヲし
 味と煎し塩少入テ能く洗フ之ヲし○吐血ハはハ鼻ヲ衄スし
 生地黄二味蓮葉ヲ研リ地黄ヲ末ニし少入テ研リ之ヲ湯
 子ヲ用ふ○又方老蓮ノ葉ヲ煎リ末ヲし白湯ニ以テ
 ハハ洗フ之ヲ七ツづク用ふ○又方釜墨ヲ細末ニし冷水
 以テ一ニ分ヲ用ふ○用キ下血ハ便ニし○白禿ハ小兒
 洗ハ蓮葉ヲ煎リ末ヲし頭ヲ洗フ之ヲ能く熨テ而テ硫黃
 石灰二味布ヲ包キ麻油ヲ以テ煎リ之ヲ汁ヲ附ス之ヲ一

禿ハ妙ナありニ一ニ萬ノ方ヲ和シ○四味圓ハ吐ハ血ヲ治ス此ノ葉ハ手足
 荷葉ハ蓬葉ハ柏葉ハの葉ヲ生キ地黄ハ以上ノ等ヲ搗キ合シ○是
 小ノにテ搗キ丸ニして毎服ニ二ニ九ヲ水ニ三ニ盞ヲ入テ一ニ盞ヲ煎リ之ヲ湯
 とテ濾ク時ヲ定メ之ヲ鼻ヲ衄ス者ハ良シ○一方ハ馬車ノりテ煎リ
 之ヲ鮮ニ血ヲ穿キ之ヲ傷メ之ヲ損ニテ中ノ院ニ血ヲ止メ之ヲ煎リ
 之ヲ汁ヲのニ如ク之ヲ穿キ之ヲ傷メ之ヲ損ニテ中ノ院ニ血ヲ止メ之ヲ煎リ
 之ヲくニ是ノとテ内傷ト名ク之ヲ煎リ末ヲし細末ニし米湯ニ以テ
 之ヲ毎服ニ二ニ錢ヲとテ服ス之ヲし○產後ニ身腫ル者ハ荷葉ヲ煎リ末ヲし
 之ヲよシ○雙荷湯ハ煎リ末ヲし時ヲ用ふニ荷葉ハ七ニ藕節ハ七ニの二味
 とテ蜜ニ漬テ飽テ乾カし細末ニし水ニ二ニ盞ヲ入テ八分以テ煎リ
 之ヲ滓ヲ濾テ食後に服ス二三服ヲめテ必ズ以テ愈ス以上ノ萬
 成形圖說卷之二十八
 十八

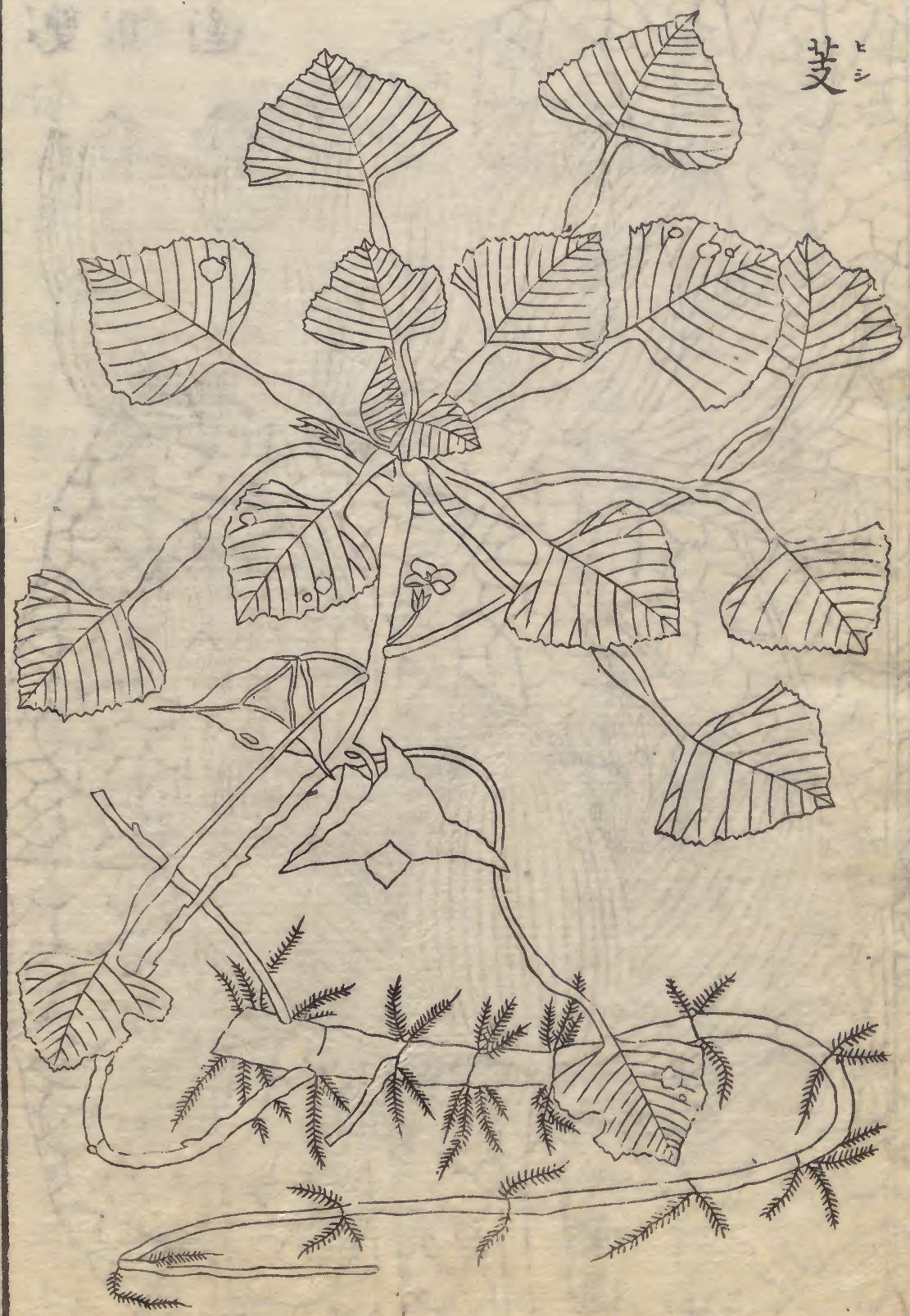
紅花ベニバナ及トノダチ聖生の藕コハ煮ニル蒸ムレよくろし藕コと煮ニルみはかから論ニル
 ば柔軟バクワみてはと剥ヒキて瀾ニルば硬ニルし是親ニルく試ニルみし氣ニルあわみ
 煮ニルみ候ニル蒸ムレと忌ニルむ又醋ニルとくくせバ黒色ニルみ変ニルらど○生藕ニル
 と比ニルきききいらしけとと水ニル花ニルし藕ニル粉ニルと製ニルる又船ニル耳ニルの
 中ニルに西國ニル米ニル了ニルよその藕ニルを用ニルふとみ藕ニルを侮ニルとなし
 て食ニル一ニルバ下痢ニルを治ニルす蓮粉ニルと製ニルみハ蓮肉ニルを取ニルみと多少
 小物ニルらにみ子ニル浸ニルて服ニルかし紅皮ニルを洗ニルひ去ニルぎ其心ニルは擇ニルと
 去ニルる水ニルらみ磨ニルて漿ニルと成ニルし縮ニル袋ニルみ入ニルて漚ニルと經ニルて毛
 粉ニルと水ニルを漂ニルて洗ニルみと去ニル清ニルくと付ニルてみと漚ニルし又包ニル
 袱ニル乃ニル内ニル子ニル在ニルて水ニルと滴ニルめ干ニルして晒ニル乾ニルに再び搗ニルて末ニルとあ

し磁ニル蓋ニル子ニル貯ニル收ニルて聽ニル用ニルふ蓮粉ニル能ニル腹ニル中ニルを補ニルふ以ニル神氣ニルと益ニル
 吐ニルし水ニル穀ニルと消ニルし肌ニル膚ニルと實ニルハ蓮ニル生ニル○煮ニル凝ニルハ藕ニル子ニル薇ニル平ニル草ニル
 思ニル葉ニル鼓ニル捲ニル湯ニル皮ニル戎ニルハ薇ニル草ニル茸ニル薯ニル蕪ニル鼓ニル包ニル豆腐ニル皮ニルの類ニルと淡ニル醬ニル
 油ニルみて煮ニル冷ニルし空ニルめ或ニルハ天ニルと解ニル和ニルて暫ニルく凝ニル結ニルと
 のとつみ大血ニルかざに盛ニルら花ニルハ條ニル毒ニル水ニル仙ニル色ニル寒ニル天ニル等ニルと所
 ちひ金ニル柑ニル酸ニル醬ニルの類ニルと飾ニルに加ニルふ又蜜ニル柑ニル子ニルを用ニルる俗
 敷ニル乳ニル柑ニルと云ニル香ニル氣ニル宜ニル愛ニル以ニル食ニルし○蓮ニルハ根ニル葉ニル花ニル宜ニル藥ニル心ニル梗ニル内ニル
 の八ニル件ニル子ニル一ニルとして葉ニル用ニル子ニル代ニルさるかし水ニル葉ニル中ニルの料ニル品ニルか
 里ニル俗ニル子ニル蓮ニル根ニルハ七年ニルの腐ニル痕ニル再ニルび奈ニルるといハ其ニル功ニル能ニルの
 秀ニルるるとい毒ニルありとらる子ニルハ何ニルとむくし水ニル戸ニル乃

朱子瑜周茂叔と賛せし辞曰王安石以知慧術數逢其君為禍方烈先生委之不可爭之不能是故愛蓮以間神志推大極無極以寄肥遯意深遠矣後之君子不解其故乃乞之古人比興の意佳く是を但し周茂叔蓮を愛して花乃君子とし其不可褻翫焉といふその意味ありと知れぬし凡そ此を考へ必弄玩を以て久しく惑溺するべし佛氏の蓮を愛せんとて已まじ惑溺の守りありざるや否や徳を弄玩するに過ぎざるの輩多し而して世人率蓮を以て佛氏環内此物とし外視をせらるる亦惑といふあるを以て朱子瑜の如き道とて大節を屈ざるの

誠ありて而後周子蓮を愛するの深意と不知を為し朱瑜字ハ魯璣舜水とて称し本朝明曆中明國清み亡さる舜水明主重興の命を受く能きごとと力微み兵源とて皇國を不救援と請て恢復せんものと謀るる志と果さざれば時國姓爺鄭成功が舜水を呼ぶ尺牘ひ台下傲株薇客而莫忘國恩の言あり其志成ざれば胡清子倪伏して節を失ふの位を視せば誠の一その偉人あり故に宋の王安石等乃論人臣とては韻府曰君を戴わると強むの言表するべしなり韻府曰蜀郡縣大竹截為筒盛酒閉以藕絲包以蕉葉信宿香達于外曰郡筒杜甫詩酒憶郡筒不用酷是なり藕味甘性平而一毒なし○主治胃と野子食と滑し酒毒と解く又雜物みても用と睡はみ大藕と洗ひ搗て綿布に裏し汁を滴し月中に入きは出ひ○凍肺裂折は

芰^{ヒシ}



續紀 元明天皇和銅六年大和國獻嘉蓮^ヲと尺之其
 後三代實錄貞觀十二年七月後四位下行伊勢守多治真
 人貞峯獻蓮^ル一莖^ト二花^ト○大日本史養和元年六月有雙頭
 蓮生法勝寺池○大治四年七月有雙頭蓮生鳥羽宮池○
 保延四年六月有雙頭蓮生勝光明院池又曰七月 上皇
 修孔雀經法於押小路殿襖雙頭蓮怪其後^シ往々^シ有之
 挽^{チカ}近^コ宝曆十二年江門坊上寺園山の蓮池^ニ生^ル以隨親^ニ寫
 真^ニ未^ス矣^トと^テハ^ハ雙頭の蒼^ヲよく別^レ也既^ニ子滿^ル開^キ也^トハ一
 蔓^ハのごとし○孝經援神契云王者德至^ニ於地^ニ則華草感^ス○
 群芳譜云竝頭蓮晉泰和間生^ス玄圃^ニ謂^フ之^ヲ嘉蓮^ト今所在有^之

臍の軟と骨とを相沖み蓮池の人の西ふ橋を架きばを
下ハ藕引長を成汗穢不潔と澆灌ハ葉莖朽臭こと所を
肥水のせを差根子治ぶ乾やう子注沃ると培養の法と
去連魔をよるありばづし方なる石盈などには枯ると比
ハ藕芽偶角ハ衝當り照ごし又夏月水垢缸ハ平をし
上より前波をせば肥を交て花盛なりと云り○盆種
ちくバ啟蟄の後先池の泥をと置其上ハ鋪平めて月
晒の泥の冴垢を候ひをし雨ふると乾ハ是を掩ひつゝ
春分にむを藕秧と東向みして
子拍りよ疎み植て再び肥する泥土をやて露めかく
ば

好壅て前法のごとく復晒て垢を候ひその時流水を汲と
缸平に貯盛なり花傍云酒麩かどの頭酒の滓を分載
ハ妻と秋との時かおし凡一竹と植きば毒量の根成
分ち繁殖り又實播みすれば生を候こと遮し秧種なれ
ば発ること敏あり紅白の者一室に植きば白子のハ枯
るなりよく一池の中に植ふと雑裁をうぐ其水の多
子りるこ子愛ふあり○一法二月頃蓮實の尾乃尖と折さ
る小葱にふと蓋実を入れて日に中きば七月より白
髪ヒゲの嫩蕩ワカチと生を交み葉と土を候て別室ハ田土と取
て移植ウツシふと貯クラハ也ヒバヒ苞オウゴン小さく自乾オウゴンなる常く水を盛る

盆ハシし地綿抄云蓮と移植するに著とて種盆ハシ花法云老蓮
 子コ装ツクリ入イ解トク也ナリ傷ケ心ココロ好ヨク開ヒラ孔アナ與ト母ハハ混マシ糞コノ子コ中ナカ同ドウ伏フシ候トキ
 離ワカ出デ取トル開ヒラ羽ハ起トキ蓮レン子コ先マ以テ天テン門カド冬フユ為シ未マ和ワ年トシ毛モウ角カク屑ケツ拌マシ泥ドロ安ヤス
 盆ハシ底ソコ種タネ蓮レン子コ在イ内ウチ勿ナラ令ス水ミヅ乾カ則スレバ生ナ葉エハ開ヒラ花ハナ如シ錢ゼン大オホ可愛ケイ也ナリ
 の茶碗蓮レンの類ルイみて又マタおのづから一ヒト錢ゼンの小蓮コレンと云ふ
 との所トコロの古今コキン醫イ統トウ云ク蓮レン萌モウ投テ淨ジヨウ瓮ウヱ中ナカ經キヨウ年ネン移シ種タネ則スレバ発ハツ花ハナ碧セキ
 色イロ芙蓉フヨウ先マ夕セキ以テ靛セン水ミヅ調テウ以テ紙シ蘸シ花ハナ蕊ズイ上ウヘ用テ紙シ最モト之ノ來キ日ヒ開ヒラ
 花ハナ亦モ成ナリ碧セキ色イロ○花ハナ史シ丸マル編ヒ云ク青アヲ蓮レン以テ蓮レン子コ磨マシ去ク頂テイ上ウヘ些シ少シ浸シ
 錠テイ缸キヤウ中ナカ明メイ年ネン清セイ明メイ取トル出デ種タネ之ノ花ハナ開ヒラ青アヲ色イロ磨マシ子コ小コ砥テイと用テふ
 ○地錦抄曰蓮花の开けし後を葦藎アシノハとて掩オホとし風雨フウカゲ
 と防トモ子コ日ヒと遮セるコト分クし農政全書蓮レンと云ふる法書ホウショの
 所トコロの藕コウと云ひて既スと云ふ池泥イケドロの中ナカにうゝと云ふ尚
 年即トシトシ花ハナさく小根コネハ深水フカミヅ子種コタネ盆ハシ々々々々に長ナガあはる深フカみ
 ふうゝ盆ハシし糞コノ敷シハ豆マメ俵ヒラとおけハ盆ハシ盛シひる○又マタ子コと云

うゝみは悪く堅カタ子コと用テひ繩ヒ子コ控コえ泥ドロ中ナカ子コを繩ヒを挂ケり
 朽クく腐クし心ココロ此コノ心ココロハ各オノ座ザ子コ根ネふりく入イ又マタ泥ドロ中ナカ子コふり
 く浸シいられて生ナやまし又七月蓮子レンコの始ハジて熟ジュクして嫩ニヤと
 かねて子コく極キマるコトし遠トウくして子コ堅カタく分クれハ生ナぐりて藕コウ
 の筋スジよりうまミ子コと生ナは折ヒくおとせと終ハシる○花語曰唐
 蓮レンハ其实ケ比ヒ泥ドロ中ナカにうゝてよくやしおハ尚ナカ年ネン花ハナさく
 或アル来キ又マタ開ヒラく又マタ盆ハシの大小オホコト子コをさくがひくも葉エハ子コ大小オホコト何ナニも
 小盆コハシよりゑるを花ハナさく二年ニネンさきてハ花ハナ色イロ変ヘトて如シ蓮
 のごとし好ヨク子コ年ネンと逐ツてうゝ盆ハシし又マタ盆ハシ子コ極キマるコト子コ大盆オホハシに
 ち一根ヒトネ小盆コハシおちち一根ヒトネあはる盆ハシし大盆オホハシ子コ二ニ存ゾクうゝれば

茂らば池の中子シダ和唐の種シダと雜シダ一う、れば唐蓮は枯るシダなり
深きフカキ子う、身ミハカラ莖カ高くアサキ浅きアサキ子枯カるシダハカラ莖カひシしシ度シ子
池シより、身ミハカラ花ハよくシ茂シるシ又シ大豆シとシありシひシし
搗ツキ碎シタて蓮シ根ネ子シ玄シバシぎシるシ雪花シ菜シをシしシ培シ氣シありシハシ所
し、凡シ、蓮シハシ人のシ垢シ汁シ膿シ血シ六シ畜シ法シ獸シ乃シ血シ肉シとシ蟻シハシ蓮シ池シ
子シ此シ等シのシ類シをシ入シきシハシ消シえシるシかシ里シ蘭シのシ人シ此シ脂シ水シとシ好シむ
とシ異シちシをシ混シ湯シのシ脂シ水シ或シハシ婦シ人シのシ糞シもシかシどシとシ蓮シ池シ子シ入
バシハシ消シるとシいシつシあシ○蓮シ枝シをシ扞シ乃シ法シ何シハシ遵シ生シハシ棧シにシ記シ
在シ十一月シ中シ將シ嫩シ條シ剪シ下シ砍シ作シ一シ尺シ一シ條シ向シ陽シ地シ上シ掘シ坑シ埋シ
之シ仍シ以シ土シ掩シ至シ正月シ後シ起シ條シ遍シ挿シ水シ邊シ林シ下シ無シ不シ活シ者シ當シ年シ

即花チハナとシ乃シえシるシりシ

○養花シ挿シ瓶シ法シ蓮シ花シとシ瓶シ中シ子シ養シるシ法シをシ花シ未シ満シ開シぶシるシと
のシをシ養シむシ子シ晚シ景シ子シ來シてシ水シをシ此シ上シとシ絲シ子シてシ罌シをシ結シむシ
をシ剪シむシしシ其シ水シとシ風シ雨シかシふシ時シハシ瓶シ子シ挿シむシるシ潤シをシ
多シるシやシうシもシ露シをシ剪シむシしシ折シみシあシ中シをシ剪シむシるシハシ脂シ出シるシ糖シ
竅シよりシ水シ入シきシハシ眼シ損シ傷シむシ又シ剪シむシるシ生シ體シ玄シハシ脂シ出シるシ糖シ
氣シ脱シくシ固シ折シをシ結シむシどシてシ剪シむシるシ乾シをシのシあシらシばシ倒シ子シなシ
してシ莖シの中シにシ水シをシ連シ子シ沃シ子シのシきシとシ強シ折シむシとシ割シ大シ豆シとシ
内シろシをシ不シとシ結シ留シてシ瓶シにシ挿シむシしシ一シ瓶シ子シ莖シ中シにシ地シ泥シをシ
充シ塞シむシ其シ口シをシ髮シ毛シもシくシ纏シむシるシ瓶シ子シ挿シむシてシ強シ水シとシ澆シくシるシ

し、然ど、も、捲、糸、か、ど、付、み、嫩、て、凋、や、ら、し、ぬ、も、葉、の、莖、中、
 み、ほ、竹、條、と、入、る、を、摧、拗、と、拵、拵、て、其、口、を、望、詰、り、の、端、
 と、火、み、て、燻、の、挿、あ、り、折、の、を、結、ば、燻、ぎ、ま、多、ハ、葛、野、也、
 居、ら、し、ぬ、瓶、中、の、沸、湯、と、入、り、花、を、立、て、予、熱、氣、の、醒、ぬ、や、
 う、子、瓶、の、口、を、穿、し、バ、花、開、き、や、ら、く、紫、を、採、り、ま、り、夏、秋、の、
 間、ハ、瓶、中、の、ぬ、り、片、と、紅、を、ち、り、ぬ、ど、に、焼、き、あ、り、て、投、
 り、バ、瓶、水、久、く、臭、ら、ぬ、と、思、ふ、る、也、○、瓶、史、云、花、之、有、使、
 令、猶、中、宮、之、有、婢、御、閨、房、之、有、妾、媵、也、蓮、花、以、山、礬、玉、簪、為、
 婢、木、樨、以、芙蓉、為、婢、又、生、花、の、存、子、蓮、か、ど、の、お、と、ま、水、料、
 丹、大、山、木、と、挿、交、て、一、み、え、る、と、瓶、子、さ、れ、か、ど、い、つ、れ、ど、

蓮、花、子、眼、て、樹、類、立、合、は、り、ぬ、又、四、季、の、中、六、月、ハ、
 百、合、蓮、花、と、挿、づ、し、○、懸、壁、瓶、釣、花、瓶、并、子、砂、の、盆、に、蓮、
 を、挿、バ、極、て、久、し、く、と、思、ふ、る、ぬ、み、只、根、こ、し、子、孫、探、
 り、挿、み、る、根、を、枝、鏡、て、寫、像、を、作、り、ぬ、く、其、盆、中、に、載、せ、
 入、て、管、束、ぬ、を、斜、に、不、懸、す、り、つ、と、と、懸、す、○、又、菖、蒲、と、保、
 ち、み、ハ、花、瓣、を、墮、ら、ぬ、と、思、ふ、ぬ、と、欲、び、蜘蛛、の、絲、を、と、り、二、
 ま、ち、ち、は、り、と、巻、き、子、を、バ、花、の、盛、を、助、長、さ、る、を、願、し、此、等、新、秘、
 と、し、て、品、芽、敷、は、可、也、

比、志、古、事、
記

生し春月その葉水上に浮出る形銀杏子似る少扁厚く
 尖りわらば邊に鋸齒あり葉下地茎に股あり鱗比股の如
 しも茎系雨雨相差一長りれば一短く五小して出の
 碟の解かやそ形水面に支散て多く産と好す紫小柴
 重複おと絶てふし夏月葉に間に小白花日と背て完
 ちり昼の會と宵たぐ月子随て移る酉陽雜俎云菱
 開向日故菱寒花暖花落て空守る水中子向て漸と熟
 わりおは五角三角或は四角六角或亦角なきものあり
 此角なきもの冬河菱といふ冬河ふ子産る一類紫実
 俱子小ものあり綱目所謂野菱其角硬直刺人其色嫩青
老黒又花鏡云最小而四角有刺者曰刺

菱花紫色と云是なり又一種葉實俱に大なるものあり
 本艸所謂家菱種于陂塘角粟而脆亦有兩角變卷如弓形
 者其色有青紅紫老則殼黒而硬墜入江中謂之烏菱是也
 又學圃雜疏云菱即菱也而多種云々産郡城者曰哥窰
 蕩産於崑山者曰婁縣皆佳甚須其種種之○洞冥記
 云靈池有浮根菱根出水上葉沈波下亦名青冰菱此物
 既子久より少採取やり万葉集卷六園歌巻のりく地
 池なる菱れらとつひとや妹がみ純如とるん延喜神
 今食料菱子二升十二月以橘又新嘗祭料菱子蓮子各二
 升とるえしあり○天皇夏の御服引衣の三重禪了と章
 は菱れ重文あり重はまゝとて亦子園は崎雄の冬
 章と花菱の角乃最銳利形志る章子をわらぶる云卿
 の夏に衣半臂指貫此章あり又華族久我家の服飾

大毛竹トキ打通其節貯肥於内フシライレ注之水底若以手種者能令其實深ミ入泥中再灌以肥スハ未有不盛者也ルニ盛又云若有萍荇相雜須速撈去則凌出始茂スハと云

氣味甘く性平子して毒無し㊦主治中と安くし酒毒取解く多く食へば陽氣と損ツキふ

成形圖說卷之二十八終

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

